

520 ^{125}I -ビタミンA結合蛋白によるエンドトキシン急性肺損傷の検出

石坂彰敏, 金沢 実, 鈴木幸男, 藤田浩文, 横山哲朗
(慶大内科) 久保敦司, 橋本省三 (慶大放射線科)

急性肺損傷を評価するため ^{125}I -ビタミンA結合蛋白(RBP)を肺胞隔壁透過性のトレーサーとして用いることの可否を検討した。急性肺損傷はモルモットにエンドトキシン(ETX)を投与して作成した。ETX投与群(n=5)では肺湿乾重量比及び肺組織と血中の ^{125}I -アルブミンの計数比が対照群(n=5)に比べて高値を示した。肺組織と血中の ^{125}I -RBPの計数比もETX投与群で高値を示した(0.088 ± 0.021 vs 0.195 ± 0.034 ; mean $\pm$ SEM)。気管支肺胞洗浄液と血中の ^{125}I -アルブミンの計数比は両群で差がなかったが、 ^{125}I -RBPの計数比は有意に高値を示した(0.024 ± 0.007 vs 0.056 ± 0.013)。 ^{125}I -RBPは急性肺損傷における壁透過性変化の検出に応用し得ることが示唆された。

521 低肺機能患者における核医学的手法を用いた右心機能の評価

森 豊, 神立進, 中田典生, 大谷洋一, 長瀬雅則,
川上憲司 (慈恵医大 放射線科) 島田孝夫 (同 3内)
浅原 朗 (JR東京総合病院 放射線科)

低肺機能症例の管理には、肺機能検査、血液ガス、肺気分布、肺血流分布等の肺機能評価のみならず右心駆出率、拍出量などの右心機能評価が必要である。低肺機能患者18例を対象に、 Kr-81m 持続注入法により、右心駆出率、右心拍出量、を測定し肺機能、肺換気血流分布、血液ガス所見、等と比較検討した。右心駆出率の測定は、 Kr-81m 持続注入イメージより、 Tc-99mMAA 肺血流イメージをリブストラクションし、より正確な駆出率の算出を試みた。右心拍出量は前回の核医学会で報告したCVPカテーテルを用いた方法により測定した。肺機能検査で拘束型を示した症例では、閉塞型に比べ右心機能はより低い傾向にあった。